



連載

皆さんに正しく伝えたい禁煙の話題

飲食店は禁煙化に舵を切ろう！

フードアナリスト・長谷章先生からの警鐘

加藤一晴

こどもをタバコから守る会

はじめに

コロナ禍が始まってはや8カ月。世界中の社会インフラは凍結し、政治、経済、教育、物流などの低迷ぶりは、リーマンショックを超えている。こんな中、ファイザー・浜松オフィスは、医療関係者に向けて禁煙講演を実施した。学会を含む大概の学術講演は中止・自粛・延期の憂き目に遭っており、普段行なっている講演会などは到底無理であろう。敢えてファイザーがWebセミナー形式

で、県民喫煙率低下に名乗りを挙げたのは賞賛すべきことかも知れない。2016年の国民生活基礎調査によれば、静岡県民喫煙率は19・8%でワースト22位、喫煙本数も14・8本/日で、ワースト17位と低迷している。喫煙率の高い地区は県東部、伊豆地方に散在している。この傾向は昭和の頃から変わっていないが、県西部に位置する浜松市民の喫煙率は10・2%なのだ。昨年、静岡県受動喫煙防止条例も制定されたが、その内容には疑問符が付くものがあった。これは県行政の問題意識の低さ

や、県民の無関心が原因ならば、改善の余地がある。むしろ伸びしろを残した条例と解釈できる。
静岡開催の日本禁煙推進医師連盟総会に向けて
令和4年には、第31回の日本禁煙推進医師歯科医師連盟が予定されているが、わが県では初の開催である。本来ならば2020年東京オリンピックが開催され、その後2025年は大阪万博が控えているが、医師連盟会開催は県民意識を高揚させる機会と捉えたい。オリンピックを開

催したブラジルやバルセロナでは、屋内完全禁煙を導入している。

実は、静岡県には世界遺産の富士山（2016年ユネスコ登録）と伊豆半島ジオパーク（2018年ユネスコ登録）と二つの世界的なエリアがあるが、これが普遍的に世界に認められるためにも、わが県も世界水準の喫煙対策は不可欠であろう。残念ながら喫煙率の高い地区では、「担税力の高い嗜好品≠生活必需品」であるが、喫煙率の低い地区では「撲滅すべき依存性物質≠禁制品相当」なのだ。

県を挙げて「健康寿命の延伸」を謳っているなら、その辺りの意識変革が必要だ。恐らくこの「不可解な無理解」との闘いは数年間では解決しえないだろう。しかし筆者は経験から、波紋は「起きるもの」ではなく「起こすもの」ということを知っている。

前向きな浜松市健康増進課

一般的に首長は、バランス感覚を要求され、地元財界の影響を受けや



浜松市役所・健康増進課では健康寿命日本一をアピールする。

浜松は健康寿命日本一		健康寿命	
浜松市民は	健康寿命	浜松市	全国
いつまでも元気!		男性	73.19年
1位		女性	76.19年
		静岡県	72.14年
			74.79年

すい。また自治体の財政部門は、少しでも多くのタバコ税収を期待する。タバコ産業から息の掛かった議員がいれば、容易に捲かれてしまうだろう。

しかし実際に地域住民に対応しているのは、保健師さんである。年間喫煙により13万5000人死亡や、15000人が受動喫煙で犠牲になっている現実を直面する彼女らの危機感は半端ない。滋賀県は各地区の保健師さんが頑張って、住民喫煙率を下げたと聴いている。

まず、今回のWebセミナー開催に関して、県内の自治体健康増進部門、保健所、健康福祉センター、そして県議会議員にも情報提供した。そして、後援は浜松市政以外にも静岡県医師会（静岡県医師会報にも掲載）、静岡県薬剤師会も申請を済ませた。各々の自治体健康増進部門に連絡し、スタッフによる県内ローラー作戦を展開した。Web形式なので、事前に、医師25名、薬剤師9名、看護師・保健師11名、その他を含め50名ほど参加したことになる。

フードアナリストとしての長谷章先生

講師の長谷章先生の肩書を別欄に掲げる。藤沢市内で開業するかたわら、多くの方面に造詣が深く、趣味は海釣り、ゴルフ、旅行、格闘技観戦であり、「尊命敬食」をモットーとしている。藤沢市医師会禁煙運動推進委員会（17名）の委員会委員長として活躍している。禁煙化の要請としては、藤沢市歩きタバコ禁止条例、ポイ捨て禁止条例の制定、藤沢市関連施設の喫煙対策、たばこ自販機撤去、藤沢市民病院、市役所、保健所、JR藤沢駅、銀行、飲食店、タクシーなどインフラ全般の喫煙対策に邁進している。

もうひとつの顔はフードアナリスト（食の情報の専門家）である。フードアナリストの社会的役割として「尊命敬食」を広めることがある。頂いた命を尊び、いかなるものも敬い、食の大切さを常に思い、謙虚に食と向き合う姿勢こそが重要とのこと。同時に、作り手に尊敬の念

前もある。

神奈川県では、県民の意識も180度変わり、県内各企業や保健所・健康福祉センターも全面的に応援している。今から10年ほど前に、筆者は「受動喫煙防止サミットIN浜松」のイベントを開催したことがある。その際、浜松市政、禁煙関係者10名で神奈川県庁を訪れた。県庁職員のスタンスは明快で、「喫煙対策は県の仕事だ。予算はないが、何とか達成したい。すべきことはいくらでもある……」と寡黙に仕事していた。「予算がない」のを微塵も言い訳にしない潔さがあったが、首長のスタンスひとつでこうも変わるものかと羨ましくなった。神奈川県では飲食店を含め、多くのアンケートがなされたが、これも先進県としての矜持なのだろう。

浜松には禁煙飲食店がない？

JR浜松駅の観光ガイド嬢によれば、他地区から来浜した方に、「禁煙店がありますか？」と聞かれるが、



講師・長谷章先生

旧知の長谷章先生は、神奈川県藤沢市（人口40万人）で開業する長谷内科医院の三代目院長である。肩書は、神奈川県内科医学会、神奈川県推進委員会委員長、平成21年度域医療功労賞（日本臨床内科医会総会）、平成24年度神奈川県内科医学会功労賞受賞、藤沢市民病院副院長。第27回日本禁煙推進医師歯科医師総会大会長を務められた。それ以外ではフードアナリスト（2級）、日本フードアナリスト協会講師、日本篤教育講師、日本酒利き酒師、日本さなか検定2級、日本ソムリエ協会プロンズクラス、讃岐饅頭文化大使、築地魚がしコンシェルジュ、禁煙飲食店を応援する会会長などを歴任され、いわば我が国の禁煙飲食店の第一人者と言えよう。

広域行政（神奈川県）との協力・支援体制

長谷章先生がこれだけ縦横無尽に喫煙対策を進言できるのはわけがある。先駆的な神奈川県には喫煙対策に理解を示す土壌

を抱かなければならない。

「いただきます」と「ごちそうさま」の間には、食材として数々の動植物の命を準備し、命がけて食材を用意し、料理してくれたもてなしの心に、感謝することが大切であるが、これらの「尊命敬食」は禁煙環境でなされなくてはいけないと強調。

さらに、酒は百薬の長であり、酒蔵で働く人々に感謝しなければならぬ。このような視点で、禁煙飲食店情報を、湘南の禁煙飲食店ガイド『ごくうま』を出版し、日々Facebookで発信していて、他の追従を許さない。



浜松市内の商店街には禁煙飲食店は見当たらないのか？

「さあ、解りません……」と返答に窮すると言う。

健康増進課によれば浜松市民喫煙率は10・2%だが、この情報を政界・財界・教育界・地域住民やマスコミは知らずに日々暮らしている。致命的な情報不足の顛末を、どこに向けて伝えれば良いのだろうか？ 飲食

があることと無縁ではあるまい。実際に前松沢知事時代に、喫煙対策は飛躍的に進んだ。県議会で松沢元知事を応援する議員は数名しかいなかったが、松沢氏は多方面に動いて、各業界代表と対談し喫煙対策の重要性を伝えた。

広域自治体の首長が、自ら動き真剣なスタンスで挑めば、県民の意識も変わる。鬼気迫る想いの松沢知事（当時）の「決意と覚悟」を目の当たりにし、共闘・支援したのが長谷章先生なのだ。神奈川県内の喫煙者向けの企画（神奈川県卒煙塾）も定期開催しているが、常に長谷先生の名

店側も10%しかない喫煙者向けの販売を展開するのだが、裏返せば90%のお客の意向を無視していることになる。この誤った営業戦略は糾せんものだろうか？

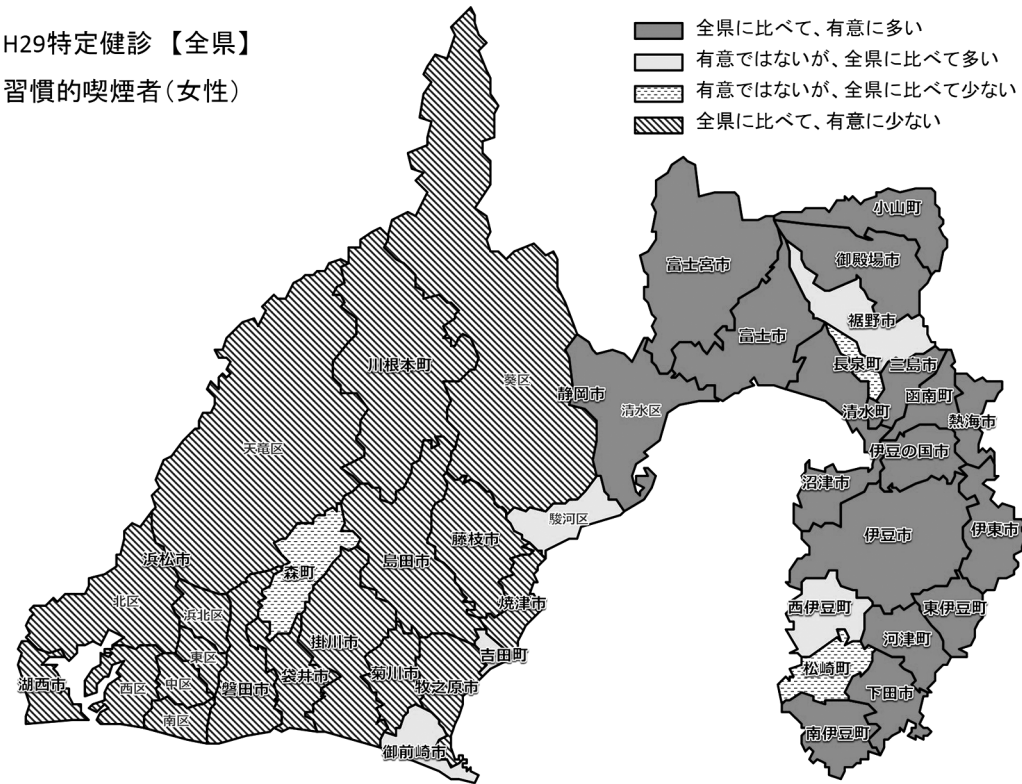
この時代の非喫煙者は、タバコの臭いがするだけで拒絶するのだ。従って、飲食店には入れないか、入っても我慢しているのだ。更にほとんどの喫煙者は新幹線に乗るとき、禁煙車両を選ぶが、飲食店禁煙化には強硬に反対する。多くの喫煙者は、脳内ホルモンの攪乱により、優先順位が解らないのだ。

昭和時代の因習、「吸わせてもてなす」ことに慣れすぎていて、店舗側の心証など眼中にない。「吸っても良いかな？」の問いかけに対し、店舗側は拒絶できない。喫煙者への時代錯誤のサービス至上主義から逃れられないのは、余りにも昭和的対応ではないか。

このような場合、家族と同席していれば、喫煙することは無いが、これは店内従業員の健康や命を軽視していることに他ならない。

H29特定健診【全県】

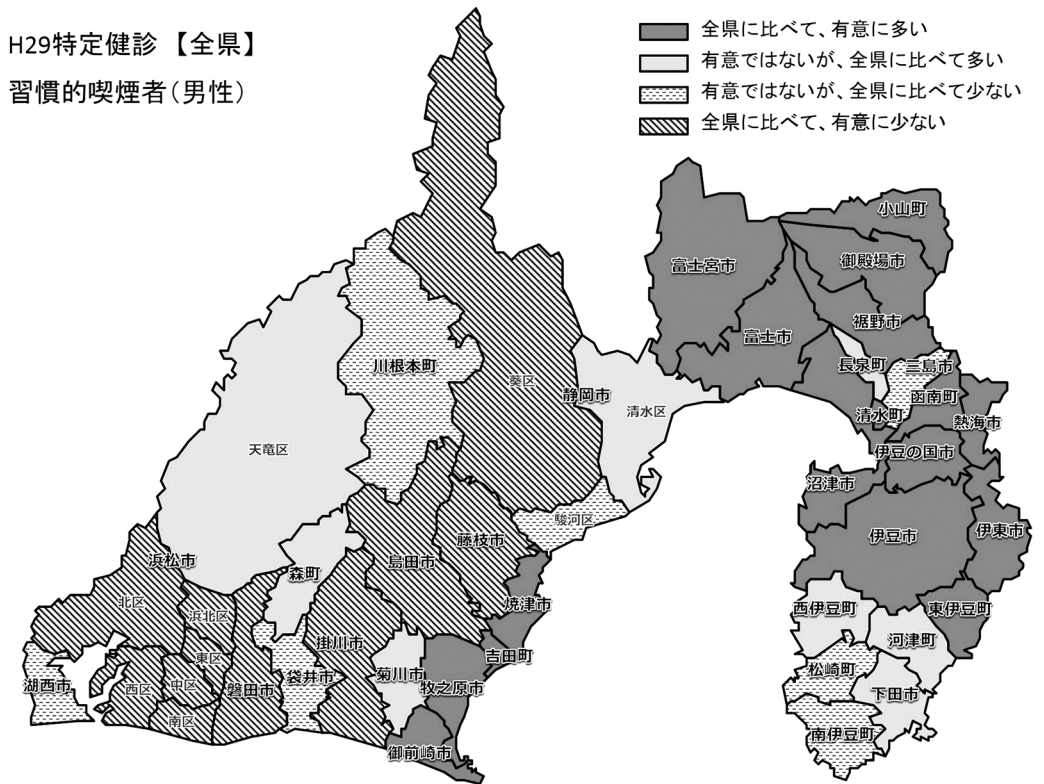
習慣的喫煙者(女性)



静岡県全域で喫煙習慣のある女性は東部の市町村に多く、西部とは大きな開きがある。

H29特定健診【全県】

習慣的喫煙者(男性)



静岡県全域で喫煙習慣のある男性は東部の市町村に多く、西部でも天竜区などの3地域に多い傾向が見られる。

いみじくもある店長は、「行政が店内禁煙と決めてくれれば、どんなに楽だろう——」と吐露したが、それは殆どの飲食店店主の本音だろう。

おわりに

ここ数年で喫煙対策にも温度差が生じてきた。地域住民の健康問題を第一に取り上げたのは、東京都の受動喫煙防止条例など数例があるくらいで、最終的には政治判断で行なわれている。

政治判断も地域住民に向けてのものなのか、永田町や霞が関官庁に向けてのものかは、如実に施策内容に表れている。言い換えれば、護らなくてはならないのが生命なのか、経済なのかに別けられるのである。

例えば「ザル法」であったり、「穴の開いたバケツ法」であったとしても、それは有権者の意見を反映できないことが本質であり、致命的欠陥と言える有権者の無関心さの裏返しかも知れない。残念ながら時代錯誤の党利党略や、業界関係者への付度から

は逃れられないが、我々は国会で意見陳述をするわけではない。

時間を掛けて、有害性情報を与えコツコツと目の前の喫煙者に対峙すべきと考える。タバコを止めることは難しいと言われるが、80%は改善するニコチン依存症の治療なのだ。いや、むしろ脱煙支援と言うべきかも知れない。

今回のWebセミナーは、全県の関係者に情報発信することが目的であり、まず第一段階は成功と考える。聴講した保健師さんや産業医にも意識の乖離が生まれただろう。担当エリアの喫煙率低減に動き出すかも知れない。今後、医師連総会開催に向けて第二弾、第三弾と継続して情報発信を続けたい。

謝辞…多忙な最中講師を引き受けて下さった長谷章先生、Webセミナー開催に尽力して下さったファイザースタッフ、後援いただいた浜松市健康増進課、静岡県医師会および静岡県薬剤師会に心から感謝申し上げます。